

2013年度

東海支部報告会

2013年5月27日（月）12:30～13:30

ル　　ブ　　ラ　　王　　山

次　第

- I. 開会の辞
- II. 支部長挨拶
- III. 報告事項
 - 1. 2012年度事業報告
 - 2. 2012年度決算報告
 - 3. 2013運営委員改選結果報告
 - 4. 2013年度運営委員
 - 5. 2013年度事業計画
 - 6. 2013年度予算
 - 7. その他
- IV. 閉会の辞

一般社団法人 情報処理学会東海支部

事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦2-17-21 NTTDATA伏見ビル内

TEL : (050)5556-2856 FAX : (052)204-4783

E-mail : shibu@ipsj-tokai.jp

1. 2012年度事業報告

1.1 支部報告会

2012年5月14日(月) ホテルルブラ王山

参加者34名(開催時出席者)

1.2 運営委員会

第1回 2012年 5月14日(月) ホテルルブラ王山

参加者28名

第2回 2012年12月 3日(月) 東桜会館

第3回 2013年 5月27日(月) ホテルルブラ王山(平成25年度支部報告会開催日)

1.3 幹事会

第1回 2012年 4月 4日(水) 中電若竹クラブ

参加者13名

第2回 2012年 6月18日(月) 中電若竹クラブ

参加者 9名

第3回 2012年10月 9日(火) 中電若竹クラブ

参加者 8名

第4回 2012年11月12日(月) 中電若竹クラブ

参加者 7名

第5回 2013年 2月15日(金) 名古屋工業大学

参加者 8名

1.4 電気関係学会東海支部連合大会 主催1回

1.4.1 大会概要

期日: 2012年9月24日(月)、25日(火) 2日間

会場: 豊橋技術科学大学

主担当学会: 電子情報通信学会東海支部

主催: 電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、IEEE名古屋支部

共催: 電気設備学会中部支部、豊橋技術科学大学

特別講演1件、合同企画シンポジウム1件・シンポジウム3件、一般講演、企業展示、懇親会

(情報処理学会関係)

情報企画シンポジウム1件

テーマ: 「ここまでできる言語処理技術～音声・言語情報処理の最先端～」

オーガナイザ/座長: 松原 茂樹(名古屋大学)

1. ここまでできる音声ドキュメント処理技術 中川 聖一(豊橋技術科学大学)

2. 音声対話システム技術の現状と課題 駒谷 和範(名古屋大学)

3. 音声および他言語ドキュメントを対象とした情報アクセス技術

秋葉 友良(豊橋技術科学大学)

4. ブートストラップ法に基づく日英対訳コーパスからの対訳用語自動抽出

外山 勝彦、小川 泰弘(名古屋大学)

5. 意味の世界に迫るテキストマイニングの拓く未来—因果関係を例として—

増山 繁(豊橋技術科学大学)

情報処理学会所属受賞者10名

連合大会奨励賞(8名):

東 拓実(名工大) 「ユーザインターフェースとインタラクティブシステム」

都築 礼(三重大) 「計算機アーキテクチャと組み込みシステム」

戸田 英治(中京大) 「計算機アーキテクチャ」

長田 若奈(名工大) 「音声言語」

中元 寿幸(三重大) 「コンピュータ・グラフィックス」

芳賀 光瑠(名工大) 「人工知能と知識」

坂 涼司(名大) 「計測」

横井 孝祐 (名城大) 「ユーザインターフェースと自然言語」
IEEE学生奨励賞 (2名) :
奥村 命 (名工大) 「情報システムと社会」
松尾 雄作 (愛工大) 「情報システムの開発と運用」

1.4.2 大会参加

- ・一般講演 649件 (平成23年度672件、平成22年度617件)
- ・企業展示 3社 (平成23年度5社、平成22年度6社)
- ・広告・援助企業数 31社 (平成23年度47社、平成22年度43社)
- ・特別講演参加者数 133名 (平成23年度172名、平成22年度68名)
- ・懇親会参加者数 92名 (平成23年度55名、平成22年度95名)
- ・大会参加者数 1107名 (平成23年度1123名、平成22年度1103名)

1.4.3 情報処理学会東海支部所属委員

■大会委員会

委員：坂部 俊樹 (名古屋大学)

■実行委員会

委員：西田 直樹 (名古屋大学)

事務局：中谷 正美 (情報処理学会東海支部)

■プログラム編集委員会

委員：柘植 覚 (大同大学)

松本 忠博 (岐阜大学)

打矢 隆弘 (名古屋工業大学)

加藤 昇平 (名古屋工業大学)

出口 大輔 (名古屋大学)

本田 晋也 (名古屋大学)

・大会委員会

第1回 第1回実行委員会合同

第2回 メール審議

第3回 第4回実行委員会合同

・実行委員会

第1回 2012年4月3日(火) 名古屋大学 VBL 4Fミーティングルーム

議題：開催日程・実施概要他

第2回 2012年8月24日(金) 名古屋大学 IB 電子情報館北館5階電気系会議室

議題：大会プログラム

第3回 2012年9月25日(火) 豊橋技術科学大学 C-204教室

議題：大会運営

第4回 2013年1月22日(火) ルブラ王山

議題：事業決算報告・奨励賞贈呈

・プログラム編集委員会

2012年7月30日(月) 名古屋大学 1B電子情報館北棟5階電気系会議室

1.5 講演会 7回 (主催7回)

(1) 2012年5月14日(月) 特別講演

演題：「日本再生に求められること」

講師：ビル・トッテン氏 (株式会社アシスト 代表取締役会長)

於：ルブラ王山 白帝の間

参加者 43名

コメント：トッテン氏はこの講演で、“消費税”，“国債”の観点から、日本が再生するための必要なことを提案し、失われた20年を取り戻すための持論を展開された。また、今現

在トッテン氏が気になっている話題として“TPP”と“原発”について触れ、世間の報道とは異なる視点からこれらの問題に対する議論を展開された。

トッテン氏は「日本再生に求められること」を述べられる前に、日本経済の過去40年の推移を、消費税導入年を区切りとしてGDPの年間成長率と合わせて分析された結果を示された。その中で消費税(3%)が導入される前の1971年～1988年(年間成長率10%)には税金は累進税と比例税のみであること、逆進的な税金である消費税(3%)が導入された1989年～1996年は年間成長率が4%、さらに消費税が5%に増税された1997年～2010年では毎年縮小していることに触れた。そして、逆進税である消費税は所得が低額になるほど税負担が重くなるため消費が減少し、経済を停滞させると訴えられた。そして、より公正かつ公平な税制として、地価税、株式売買税、外国為替取引税、日本円の売買に対する税、通貨使用税を挙げられた。新規公開株以外の株式の売買、外国為替の取引、銀行の貸し付けなどはギャンブル的要素があるために、これらから税金を取るべきであるというのが、トッテン氏が提案された税制の特長である。日本政府が1,000兆円を超す借金(国債)を抱えている原因を、民間銀行が通貨を作り出せてしまう「部分準備銀行制度」にあると分析し、保持している金額以上の通貨を貸し付けて利子を発生させることを問題視された。その解決策として、これまでの国債すべてを国が買い取り、部分準備銀行制度を廃止することを提案された。

トッテン氏は講演の最後に、これらの提案を実現できるかどうかについても言及された。実現には利害関係があるので難しいと述べられたが、それ以上に耳に残った言葉は、国民が政治に無関心すぎるということであった。本講演で説明された経済情勢を多くの国民が知らないこと、それで我々が損をしているとの指摘は非常に鋭い指摘であった。トッテン氏の講演は聴講者にこれまでに以上に政治や経済へ関心を持たせる内容であった。

(2) 2012年6月14日(木)第2回

演題：「Building Intelligent Platform for M2M Applications」

講師：Kwei Jay Lin先生(カリフォルニア大学アーバイン校教授)

於：名古屋工業大学 19号館202号室

参加者 15名

コメント：講演では、Machine to Machineという概念の初歩的な定義から始まり、その応用研究であるLin先生のWu-Kongプロジェクトが紹介された。Machine to Machineという概念は、Wireless Sensor NetworkやCybet Physical SystemsやInternet of Thingsに非常に関連が深く、講演ではこれらの違いについての議論があった。Machine to Machineという概念は、センサーや計算機を含む機械と機械を情報ネットワークで結びつけ、大量の情報を獲得・分析したうえで、「新たな付加価値」を創造することに新しい視点がある。Lin先生は、この視点からM2Mのための新しいミドルウェアプラットフォームを考案されており、Wu-Kongプロジェクトと呼ぶ。Wu-Kongとは孫悟空を意味しており、クラウドを自在に操りながら、全体を見ながら調整をするインテリジェントなマスターシステムをベースに、M2Mに新しい付加価値を提供できるフレームワークである。終始、分かりやすい表現と、楽しい例題を提供され、議論が活発になり、大変にぎやかなで有意義なセミナーであった。

(3) 2012年10月3日(水)第3回

演題：「ゲーム制作におけるCGアニメーション技術」

講師：向井 智彦氏

(株)スクウェア・エニックス テクノロジー推進部 シニアリサーチャー)

於：岐阜大学 全学共通教育講義棟 102番教室

参加者 134名

コメント：ハイエンドゲームに用いられるリアルタイムCGアニメーション技術を中心として、近年のゲーム制作における技術動向を分かりやすく解説していただいた。サウンド付き映像作品の上映など、映像をふんだんに使った講演で、専門知識がなくても十分楽しめる内容であった。CG生成のためのデータを極力減らし、力学的なシミュレーション

等によってリアルタイムに自然な映像を生成する技術が開発されていることが紹介され、例えば、高低差のある地形での歩行において、足を着く地点をリアルタイムに算出し、その位置の状況に応じて自然な動作が生成される様子などが映像によって示された。一方、現状ではシミュレーションだけではリアルな映像を得ることが難しく人手による修正が必要であること、演出のために要求される動き（風になびく髪の毛の動き方など）を自在に生成するのはシミュレーションだけでは難しいことなどの課題も紹介された。また、ゲーム制作コストの削減が期待される、ゲーム制作のための統合開発環境（ゲームエンジン）についても紹介があった。会場には学生を中心に130名以上の聴講者が集まり、講演会終了後の質疑も活発に行われた。講演会は大変盛況であった。

(4) 2012年10月29日(月) 第4回

演題：「Erlang/OTP並行処理プログラミングシステムに見る情報セキュリティの未来」

講師：力武 健次氏（京都大学 情報環境機構 IT企画室 教授）

於：名古屋大学 東山キャンパス

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 3階 ベンチャーホール 参加者 27名

コメント：本講演会では、インターネット・プロフェッショナル・エンジニアとしてご活躍されている力武健次教授（京都大学）にプログラミング言語Erlangの昨今の情勢、および情報セキュリティのためのErlangの貢献について講演していただいた。講演ではまず、Erlangの歴史、特に、どういった経緯で開発されたプログラミング言語であるかを紹介していただいた。Ericsson社で開発されたことから電話交換機を元に解説をしていただき、Erlangを知らない聴講者にとっても非常に背景をわかりやすく説明していただいた。また、Erlangの昨今の情勢を説明していただき、さらにすぐにErlangに入門できるような丁寧なリソースの提示があった。講演の終盤では情報セキュリティに言及され、情報セキュリティに対してErlangに何が期待できるかということを示唆していただいた。講演の中で特に興味深かった点は、Erlangでは既に運用しているシステムにおいて、システム全体を停止せずに部分的にリプレイスできる点であった。すでに稼働しているプロセスはそのまま稼働させておき、新しいシステムを導入する。新しく稼働するプロセスは新しいシステムで稼働し、古いシステムで稼働しているプロセスがすべて停止した後に古いシステムを除去することで、システム全体を停止せずに新しいシステムに移行するという方法である。このような特長から、Erlangという言語が非常に有用なプログラミング言語であると期待が持てた。質疑応答の際には聴講者から実務への利用の観点からの質問があり、活発な議論がなされた。

(5) 2012年11月20日(火) 第5回

演題：「法科学分野における音声情報処理」

講師：長内 隆氏（科学警察研究所 法科学第四部 情報科学第三研究室 室長）

於：大同大学 S棟 204室

参加者 30名

コメント：科学警察研究所 長内 隆氏により上記の演題の御講演を頂いた。あまり一般的でない警察関連の立場の方からの講演であり、技術者と異なる観点での講演で好評であった。講演頂いた内容は、科学警察研究所の位置づけからはじまり、現在に至るまでの犯罪における音声の扱われ方、その後、この情報化社会における音声関連の犯罪や警察として音声（音）の利用方法などの講演を頂いた。非常に有益な講演を時間いっぱいまでやって頂いたので、質疑応答の時間があまりとれなかった点が残念であった。

(6) 2012年12月3日(月) 第6回

演題：「歴史を明日の糧に」

講師：中野 裕子氏（博物館 明治村 主任学芸員）

於：東桜会館 1階 集会室

参加者 38名

コメント：博物館明治村の学芸員である講演者の、なかなか聞くことができない普段の仕事内容や

苦勞話、歴史への情熱を講演いただいた。博物館で所有する家具・調度品における歴史的背景の重要な発見は、小さな気づき・疑いをきっかけに探究心をもって調査をした結果に得られるという事例がいくつか挙げられ、学術関係者の多い聴講者からも共感を得ていた。

また、家具・調度品については、例え歴史的価値があっても、日本ではそれらを保存・活用する法令なり基準はなく、自分たちで創意工夫しながら保存する努力をしていること、一方で海外ではこれら取り組みは進んでいることの紹介があった。

昨年東日本大震災が発生したが、歴史を紐解くと日本では同様な地震や津波の発生は数多く見られ、その予防対策および発生時の対処ノウハウも残ってはいるが、活用されていなかったのが実情であり、今回の震災の事実や経験を如何にして後世に残すかの課題は注目されている。これらを含め、歴史を記録し残すこと、およびアピールし伝えていくことの重要性およびその方法について、当学会員にも、ぜひ情報処理の技術も活用しながら考えていただきたいという講師の言葉が印象的だった。

(7) 2013年3月2日(土) 第7回

演題：「視線情報と言語処理」

講師：相澤 彰子氏(国立情報学研究所 教授)

於：名古屋大学東山キャンパス VBL 3階 ベンチャーホール

参加者 40名

コメント：国立情報学研究所 相澤 彰子氏による上記の演題による講演会を開催頂いた。本講演会は音声ドキュメント検索ワークショップ内で開催された講演であり、参加者には音声研究者、情報検索研究者が多く参加し、約40名程度の参加者であった。演題は「視線情報と言語処理」であり、新しい研究分野である視線情報を取り扱っており、非常に好評な講演であった。実際に、講演中の質疑応答は活発であり、参加者からの反応も非常に良い講演であった。特に、現在の視線をセンシングするところに関しては好評であり、現状の視線情報処理が把握できる講演であった。

時間が1時間で少々足りない気がするほど、有意義な講演であった。

1.6 研究会他 9回(協賛9回)

(1) 2012年6月1日(金)

電子情報通信学会東海支部 一般講演会「実電波の安全性を考える」

(協賛、主催：一般社団法人電子情報通信学 東海支部)

(2) 2012年6月30日(土)

第9回中部シンポジウム「最新データ・サイエンスの動向」

(協賛、主催：日本オペレーションズ・リサーチ学会 中部支部)

(3) 2012年7月21日(土)

第2回 ITトレンド・フォーラム 「スマートデバイスとIT産業の展望」

(協賛、主催：一般社団法人持続可能なモノづくり・人づくり支援協会 (略称ESD21))

(4) 2012年10月16日(火)・17日(水)

「フロンティア21エレクトロニクスショー2012」

(協賛、主催：中部エレクトロニクス振興会)

(5) 2012年10月19日(金)

情報科学シンポジウム

—デジタルコンテンツ&コンシューマ機器の過去・現在・未来—

(協賛、共催：情報処理学会(CDS研究会およびDCC研究会)、愛知工業大学)

(6) 2012年11月13日(火)

プロジェクトマネジメント学会 中部支部総会シンポジウム
(協賛、主 催：PM学会 中部支部)

- (7) 2012年11月30日(金)
JaSST' 12 Tokai ソフトウェアテストシンポジウム 2012 東海
テストの目的考えよう ～「これまでの築き」と「これからの気付き」～
(協賛、主 催：JaSST' 12 Tokai実行委員会)
- (8) 2012年12月8日(土)・9日(日)
第10回情報学ワークショップ WiNF2012
(協賛、主 催：豊橋技術科学大学(情報・知能工学系))
- (9) 2013年1月9日(水)
一般社団法人電子情報通信学会 平成24年度専門講習会
「工学・産学官連携による近未来リハビリテーション支援ロボットの開発動向」
(協賛、主 催：電子情報通信学会本部、同東海支部)

1.7 2012年度学生研究発表会助成

学生研究発表会助成は、複数の大学にまたがる場で研究発表会を開催し、研鑽を積むことを目指す学生を支援する

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部正会員

助成対象発表会：2012年3月1日～2013年2月28日の間に開催される研究発表会

助成件数・金額：数件、総額10万円以内

申請期間：2012年3月1日～2013年2月28日

・申請：1件 助成

第10回情報学ワークショップ WiNF2012

実施日：2012年12月8日(土)・9日(日)

1.8 学生論文奨励賞

情報処理学会東海支部に所属する学生会員(卒業後1年未満の会員も含む)で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成果をあげ、その将来を嘱望される方に学生論文奨励賞を贈呈する。

募集期間：2013年1月15日(火)～3月15日(金)

選定委員会：2013年4月30日(火) 若竹クラブ

表彰式：2013年5月27日(月) 於：ルブラ王山

授賞者：8名 氏名(申請時所属) 論文タイトル

江藤 正通(名工大)

『Starving Writerの解消によるLogTMの高速化』

奥村 健太(名工大)

『楽譜に基づく鍵盤楽器演奏の統計的モデル化手法』

掛井 将平(岐大)

『TPMを用いたオフライン型タイムスタンプ』

胡 艶楠(名大)

『レクトリニア多角形配置問題に対する高速な構築型解法』

斎藤 正孝(中京大)

『濃度共起分析に基づく安定画素を用いた照明変動にロバストな画像照合』

成田 了(三重大)

『A Study on Three Dimensional Rotation-Free Character Recognition and Rotation Angle Estimation of Characters』

納堂博史（大口町役場）

『NTMobileにおける自律的経路最適化の提案』

原 圭佑（名工大）

『経時的に変化する効用に基づくエージェント間交渉の仲介メカニズムの提案』

（五十音順）

1.9 情報処理学会学生無料トライアル会員制度について

2012年10月大学別学生会員数により上位2校を拠点校に決定した

拠点校：名古屋工業大学（担当：伊藤孝行）・名古屋大学（担当：西田直樹）

1.10 東海支部設立30周年記念行事

開催日時：2013年5月27日（月）14時から 於：ホテルルブラ玉山

概要：記念シンポジウム・記念祝賀会・記念誌発行

実行委員：

実行委員長：坂部俊樹（名大）

実行委員：岩瀬勇二郎（トヨタデジタルクルーズ）

伊藤孝行（名工大）

大野宏司（豊田中研）

杉浦宏幸（中電）

柘植 覚（大同大）

西田 直樹（名大）

松本 忠博（岐大）

中谷正美（情報処理学会）

実行委員会

第1回 2013年2月15日（金）若竹クラブ 同日2012年第5回幹事会開催

第2回 2013年4月8日（月）若竹クラブ 同日2013年第1回幹事会開催

第3回 2013年4月30日（火）若竹クラブ 同日学生論文奨励賞選定委員会開催

2. 2012年度決算報告

2.1 収入の部

(単位：円)

2012年4月1日～2013年3月31日

収入科目	2012年度	
	予算額	決算額
交付金	3,280,000	3,074,000
(本部交付金)	2,780,000	(※1) 2,654,000
(賛助金還元分)	500,000	(※1) 420,000
利息	100	31
前年度繰越金	794,488	794,488
計	4,074,588	3,868,519

2.2 支出の部

支出科目	2012年度	
	予算額	決算額
1. 事業費	1,750,000	1,036,206
30周年記念行事費	100,000	0
支部連合大会費	350,000	103,063
講演会・研究会費	350,000	(※2) 358,870
支部助成金費	100,000	30,000
支部表彰費	150,000	137,775
年次報告会費	(※2) 450,000	(※2) 295,718
会議費	250,000	110,780
2. 事務費	1,950,000	1,949,046
通信費	50,000	69,755
消耗品費	20,000	6,491
郵便運搬費	10,000	8,000
雑費	5,000	0
事務委託費	1,865,000	1,864,800
3. 予備費	374,588	
4. 次年度繰越金		883,267
計	4,074,588	3,868,519

(※1) 2012年度から支部への予算配分額の算定方法を学生会員に重点をおいたものに改訂。

また、算定のための会員数は期末2013年3月31日現在のものである。

(※2) 報告会特別講演費用を予算時⇒年次報告会費に計上したが、決算時⇒講演会・研究会費に計上
(本部会計仕訳科目に合わせ、支部会計仕訳科目を変更した)

3. 2013年度支部運営委員改選結果について

選挙期間：2013年2月1日～2013年3月3日

A：投票用紙発送数 1, 124件（1月現在会費納入済の正会員および名誉会員）

B：投票数 216票

C：投票率 [B/A] 19.2%

D：開票結果

役 職	候補者氏名	得票数
支部長	いわせ ゆうじろう 岩瀬 勇二郎	207
副支部長	きむら ふみたか 木村 文隆	207
幹 事	いそ なおゆき 磯 直行	190
〃	うちや たかひろ 打矢 隆弘	200
〃	たけだ おさむ 武田 治	187

退任者 支部長 坂部 俊樹（名大）
副支部長 岩瀬 勇二郎（トヨタデジタルクルーズ）
幹 事 伊藤 孝行（名工大）
幹 事 大野 宏司（豊田中研）
幹 事 杉浦 宏幸（中電）

留任者 幹 事 柘植 覚（大同大）
幹 事 西田 直樹（名大）
幹 事 松本 忠博（岐大）

4. 2013年度運営委員

(*新任、**再任、無印2年目)

役職	印	氏名	所属
支部長	*	岩瀬勇二郎	(トヨタデジタルクルーズ)
副支部長	*	木村 文隆	(三重大学)
幹事	*	磯 直行	(中京大学)
	*	打矢 隆弘	(名古屋工業大学)
	*	武田 治	(中部電力)
		柘植 覚	(大同大学)
		西田 直樹	(名古屋大学)
		松本 忠博	(岐阜大学)
委員	*	浅井 徹	(あいち産業科学技術総合センター)
	**	伊藤 憲生	(OKIソフトウェア)
		岡本 隆一	(日立オムロンターミナルソリューションズ)
	**	何 立風	(愛知県立大学)
	*	海谷 治彦	(信州大学)
		片山 喜章	(名古屋工業大学)
		金子 美博	(岐阜大学)
	*	河合 敦夫	(三重大学)
	*	河辺 義信	(愛知工業大学)
	*	小暮 悟	(静岡大学)
	*	酒井 正彦	(名古屋大学)
	*	沢田 篤史	(南山大学)
	*	鈴木 秀和	(名城大学)
	*	東道 徹也	(デンソー)
		中村 文明	(トヨタ自動車)
		長屋 匡紀	(中部電力)
	橋本 学	(中京大学)	
*	増山 繁	(豊橋技術科学大学)	
*	松井藤五郎	(中部大学)	
	水野 徳重	(メイテツコム)	
**	吉澤 明芳	(萩原電気)	

(五十音順)

5. 2013年度事業計画

5.1 支部報告会 2013年5月27日(月) HOTELルブラ王山

5.2 運営委員会 3回

第1回 2013年5月27日(月) HOTELルブラ王山

第2回 2013年12月上旬(予定)

第3回 2014年5月(予定) (2014年度支部報告会開催日)

5.3 幹事会 5回

第1回 2013年4月8日(月) 若竹クラブ

第2回 2013年6月13日(木) 若竹クラブ

第3回 2013年10月上旬(予定)

第4回 2013年11月中旬(予定)

第5回 2014年2月中旬(予定)

5.4 東海支部設立30周年記念行事

※東海支部設立：1982年5月6日

(1) 開催日時：2013年5月27日(月) 14時～ (※2013支部報告会後に開催)

(2) 開催場所：HOTEL ルブラ王山

〒464-0841 名古屋市千種区覚王山通8-18 TEL:052(762)3105

(3) 記念シンポジウム 会場：葵の間 14:00～17:30

14:00～14:10 支部長挨拶

14:10～15:10 講演1 テーマ：「この30年を振り返って」

講演者：稲垣 康善氏(豊橋技術科学大学 理事・副学長)

15:20～16:20 講演2 テーマ：「The Evolution of Online Advertising Platforms:

From Search & Display to Video, Social and Mobile」

講演者：Joaquin A. Delgado氏(Intel Corporation,

Director of Data Analytics at Intel Media)

16:30～17:30 講演3 テーマ：「無線通信技術の進歩とワークスタイル変革

～最新ソリューション及び今後の展望」

講演者：松本 洋一氏(アルバネットワーク株式会社 取締役社長)

(4) 記念祝賀会 会場：千成の間 18:00から

18:00～18:20 学生論文奨励賞表彰式

18:20～ 30周年祝賀会

(5) 記念誌『東海支部30年のあゆみ』発行

・「情報処理学会東海支部30周年にあたって --最近の10年を振り返って--」

坂部俊樹氏(名古屋大学 教授)

・「30周年記念シンポジウム概要」

・「最近10カ年の活動記録」(データ)

・「名簿」(データ)

(6) その他

参加費(シンポジウム・祝賀会)無料

5.5 支部大会(電気関係学会東海支部連合大会として)

(1) 期 日：2013年9月24日(火)、25日(水) 2日間

- (2) 会 場：静岡大学 浜松キャンパス
- (3) 主担当学会：電気学会東海支部
- (4) 概 要：・特別講演（1件）
 ・合同企画シンポジウム（1件）
 ・シンポジウム・チュートリアル（3件）
 ・一般講演（公募）
 ・懇親会
 ・広告募集・企業展示
 ・奨励賞
- (5) 主 催：電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、
 照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、
 IEEE名古屋支部

5.6 講演会 主催6回

- (1) 2013年7月12日（金）

演題：「計算の可逆性制約を活かした新しいプログラミング言語」
 講師：横山 哲郎氏（南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科 准教授）
 於：名古屋大学東山キャンパス IB電子情報館中棟 IB013講義室
 協賛：名古屋大学大学院情報科学研究科

※上記を含め6回開催予定

5.7 研究会 随時

- (1) 2013年11月6日（水）・7日（木）

「フロンティア21エレクトロニクスショー2013」
 （協賛、主 催：中部エレクトロニクス振興会）

- (2) 2013年 9月 20日（金）

「日本OR学会中部支部第10回シンポジウム」
 機械学習とデータマイニングによる知識発見
 （協賛、主 催：日本オペレーションズ・リサーチ学会 中部支部）

5.8 学生研究発表会助成

学生研究発表会助成は、複数の大学からの学生が研究発表を通して互い研鑽を積む場を提供することを目的とする研究発表会に参加する学生を支援します。

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部正会員
 助成対象：2013年3月1日～2014年2月28日の間に開催される研究発表会
 助成件数・金額：数件、総額10万円以内
 申請期間：2013年3月1日～2014年2月28日

5.9 学生論文奨励賞

情報処理学会東海支部に所属する学生会員（卒業後1年未満の会員も含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成果をあげ、その将来を嘱望される方に学生論文奨励賞を贈呈する。

・実施概要

申請期間：2014年1月中旬～3月中旬
 選定委員会：2014年4月中旬
 表彰式：2014年5月（支部報告会）

5.10 支部運営委員の役割分担について

支部長 : 岩瀬支部長 (支部を代表し, 支部を統括する)

副支部長 : 木村副支部長 (支部長を補佐し, 支部長が欠けたとき又は事故があるときはその職務を代行するものとする)

幹事 : 支部長を助けて支部の事業を遂行する

委員 : 支部長と協力して支部の事業の遂行を援助する

■業務別担当幹事

- ・総括担当幹事 : 西田幹事 (幹事の取りまとめ、会議資料案チェック)
- ・庶務担当幹事 : 柘植幹事 (総務、議事録作成)
- ・会計担当幹事 : 武田幹事 (会計管理、事務局監督員)
- ・学生担当幹事 : 磯幹事 (学生会員増強)
- ・広報担当幹事 : 松本幹事 (支部HP管理、支部会員への広報)
- ・連合大会担当幹事 : 打矢幹事

6. 2013年度予算

6.1 収入の部

(単位：円)

収入科目	2012年度		2013年度
	予算額	決算額	予算額
交付金	3,280,000	3,074,000	4,074,000
(本部交付金)	2,780,000	(※1) 2,654,000	2,654,000
(賛助金還元分)	500,000	(※1) 420,000	420,000
(周年行事支援金)	0	0	(※3) 1,000,000
利息	100	31	100
前年度繰越金	794,488	794,488	883,267
計	4,074,588	3,868,519	4,957,367

6.2 支出の部

支出科目	2012年度		2013年度
	予算額	決算額	予算額
1. 事業費	1,750,000	1,036,206	2,620,000
30周年記念行事費	100,000	0	1,197,344
支部連合大会費	350,000	103,063	400,000
講演会・研究会費	350,000	(※2) 358,870	350,000
支部助成金費	100,000	30,000	100,000
支部表彰費	150,000	137,775	170,000
年次報告会費	450,000	(※2) 295,718	(※4) 82,656
会議費	250,000	110,780	(※5) 320,000
2. 事務費	1,950,000	1,949,046	2,010,000
通信費	50,000	69,755	10,000
消耗品費	20,000	6,491	(※6) 120,000
郵便運搬費	10,000	8,000	10,000
雑費	5,000	0	5,000
事務委託費	1,865,000	1,864,800	1,865,000
3. 予備費	374,588		327,367
4. 次年度繰越金		883,267	
計	4,074,588	3,868,519	4,957,367

(※1) 2012年度から算定基準改訂。配分額は期末2013年3月31日現在の会員数から算出

(※2) 報告会特別講演費用を予算時⇒年次報告会費に計上した。

決算時⇒講演会・研究会費に計上した。

(本部会計仕訳科目にあわせ、支部会計も講演会・研究会費に科目を変更した。

(※3) 支部設立30周年記念行事支援金

(※4) 2012年報告会費は懇親会費用を含む。2013年報告会費は会場費のみ。

(※5) 記念行事が同日開催のため、合同運営委員会をランチ付会議とする。

(※6) パソコン購入代費用10万円を含む。

7. その他